南部中ホームページ （http://www.nanbu-chu.ed.jp/）はこちらから →

南部町立南部中学校　学校だより　第１２号

チーム南部中

令和2年 9月18日（金）
校長　望 月 和 彦

第１０回輝城祭　～大きな経験～

９月１２日（土）第１０回輝城祭を開催しました。天気予報では，土日が両日とも雨で，前日の午後３時まで順延するかどうかの判断に悩みましたが，予定通りの実施としました。当日，午前の文化の部は小雨混じりの曇りで体育館内は涼しく，昼には雨も上がり，体育の部の頃には午前の雨で埃もたたないという絶好のコンディションとなりました。

オープニングでは，事務局が制作したスライドが上映されましたが，その中で遠藤楓乃生徒会長の音声が流れました。それは，臨時休校明けの５月２４日，実施できるかわからない輝城祭に向けての思いを録音した音声でした。「学校が再開し４ヶ月ぐらいが経っていると思いますが，休校前のようないつも通りの日々を過ごせていますか？そうだったらいいな。休校中，私はたくさんの幸せに気付きました。小さな幸せは普段の生活の中にある事。あたりまえの１日は，小さな幸せが詰まってできています。小さな幸せを見落とさないようにしたいです。」学校生活や輝城祭などの行事が生徒たちにとっていかに大切であるかを語り，５月からその取り組みが始まっていたことを証明する音声でもありました。

そして「ソーラン節」。ソーラン節はほぼ毎年，その年の３年生が披露していますが，今年のソーラン節は今までと一味違った迫力のあるものでした。コロナで制限された今年度だからこそ，様々な困難を乗り越えやっと発表できるこのときだからこそ，という３年生の思いが伝わってくるものでした。最後の決めポーズも「密」ではない新しい形を考えてくれました。（本校のソーラン節の評判は他校にも広がっており，休日には身延中３年生代表の生徒と先生，増穂中の先生も見学に来ていました。）

続いて，美術文芸部と吹奏楽部の発表です。美術文芸部は昨年度に続き，「切り絵」のライブパフォーマンスを披露してくれました。南部中の校舎を代表するシンボル的な５つの場所を季節をあらわす花と一緒に描いてくれました。ステージ上で完成させた作品は，細かなところまで丁寧に仕上げてあり，11 人の力を合わせたとても素敵な作品でした。作品は身延高校のライフミュージアムにも展示される予定です。吹奏楽部にとって最大の目標である吹奏楽コンクールが中止となり，たけのこ祭りやソロコンサートなど様々な発表の機会も失われ，３年生にとって今年度最初で最後の発表となったのがこの輝城祭でした。３年間取り組んできた想いと練習の成果を，一曲一曲に込めて演奏してくれました。アンコールで演奏したテーマ曲「宿命」は特に心に残りました。曲づくりにひたむきに努力し，仲間を大切にしてきた３年生の姿勢は，きっと１・２年生に受け継がれるはずです。

続いては学年発表です。１年生は演劇「グッドバイ・マイ…」。生まれる前の４人の子どもたちが，自分の運命を告げられ，思い悩みながらも，自分自身の手で運命を切り開こうと決意する過程を描いた作品です。はっきりとした声と１年生とは思えないような表現力でトップバッターの責任を見事に果たしました。身延高校演劇部の鈴木先生は「中１にしてはとても上手。これからが楽しみですね。」と話してくれました。

２年生は演劇「夏色をさがして」。夏休みに入った６人の子どもたちが，夏の遊びとして考えた「夏色さがし」。精霊たちと先生二人も加わって，花火大会の前に様々な出来事が起こります。仲間との友情や思い出の大切さを描いた作品を精一杯演じてくれました。感情表現や所作にも様々な工夫が見られ，大人の表現ができるようになってきた２年生の発表でした。

そして，３年生が挑んだのは「よしもと新喜劇―３年Ｂ組南部造先生―」。最初に台本を見させてもらったとき，「本当にできるのかな」と心配もしました。でも，この３年生が選んだものならと思い，取り組みの様子を見ていたところ，生徒監督を中心に，自分たちで互いに指摘やアドバイスをしながらより高いレベルの表現に取り組んでいました。そして本番。コロナで苦しいときだからこそ，笑顔で笑える劇にしたいという思いが伝わってくる素晴らしいものでした。指示された演技，台本通りの演技では，心からの笑いをとることはできません。自分たち自身で考え創意工夫し，自分を捨てて役になりきることで，会場全体を笑顔と笑いに包んでくれました。

そして，午後の体育の部。今年度は感染症対策のため，例年行われてきた「ムカデ競走」「綱引き」をやめて学年別リレーを入れたり，大縄の跳び方を８の字に変えたり，「棒取り」では密にならないルールをつくったりしました。最初の集団行動では，生徒の間隔をいつもより空けての発表でした。１年生も初めての演技にしては上出来でしたが，やはり学年が上がるほど見応えのある演技で，３年生は「さすが」と思わせるものでした。４つの得点種目での勝利を目指し，各クラスが様々な問題を克服しながら気持ちを一つにし，担任も一緒になって練習に取り組み，本番を迎えました。勝っても負けても，「過程を大切にして」を合い言葉に，クラスの団結や仲間との友情を高めることができたと思います。最後には，軍手をつけてのマイムマイムとジンギスカンで全校生徒が一つになりました。

閉祭式は体育館です。各クラスの代表者からは，輝城祭の取り組みを通して，学級や学年がまとまり，様々なことを学び成長することができたことが述べられました。生徒会事務局からは「私たちは，中学時代に誰も経験してこなかったことを経験しました。今回の経験が一生の宝物になればと思います。」との言葉があり，困難な状況下での輝城祭だからこそ，今までにない大きなものを得ることができたと感じられる本校の生徒たちに，大きな拍手を送りたいです。

今年度は，各家庭１名で内容ごとの入れ替え制の参観とさせていただきましたが，合計 124 名の保護者の皆様に参観していただきました。ありがとうございました。

吹奏楽部，美術文芸部もバトンタッチ

運動部の３年生は県総体で引退しましたが，輝城祭をもって吹奏楽部と美術文芸部の３年生も引退となりました。３年生たちは自分たちの確かな足跡を残し，下級生に手本となる姿を見せてくれました。部活動で得たものを，今後の生活に活かしていってほしいです。以下は顧問からのメッセージです。

吹奏楽部

夏のコンクールが無くなってしまった時の衝撃は，今でもハッキリと覚えています。最後の夏に向けて勝負をかけ，去年果たせなかった関東大会出場に向けて頑張ろうとしていた矢先のことでした。全てが無くなってしまい途方に暮れ，頭では理解できているけれど，心が追いついていかない。そんな日々を過ごしました。このまま終わってしまうのか・・そんな事を考えていましたが，今回この輝城祭で発表の場をいただけたことにより，みなさんの活動にも活気が戻ってきました。吹奏楽部の目的，『音楽を通して，人として成長する』，目標『聴いている全ての人を笑顔にする』のもと，最初で最後の発表に向けて，みなさんの頑張る姿を見る事ができました。３年間，お疲れ様でした。

美術文芸部

今年度の輝城祭をもって，美術文芸部３年生の活動が終了しました。運動部に比べて活動期間がやや長いので，大変に思うこともあったかもしれませんが，３年生は最後までよく頑張りました。入学してから今回の輝城祭まで２年と６ヶ月。その間に切り絵や絵画の腕前も上達しました。今年の輝城祭では，自分たちが日頃お世話になっている校舎をテーマにした切り絵を披露しました。細かく大変な作業でしたが，1，2 年生を引っ張りながら取り組み，当日は，心のこもった作品を見ていただくことができたと思います。これからはそれぞれの目標に向かって進んでいってください。